

2019年（令和元年）の貧酸素水塊 まとめ

2019年の底層の溶存酸素量分布を図1に、貧酸素水塊の規模の季節変化を図2に、年最大規模の経年変化を図3に示します。

貧酸素水塊は5月7日に初確認されました。5月中は内湾北部の水深15m以深を中心に分布し、6月以降は内湾中央部にも分布域が広がり、6月下旬の湾奥では溶存酸素量が1.5mL/L以下と貝類の生存に影響を及ぼす水準まで低下しました。

縦断ラインでの貧酸素水塊の規模は、7月までは直近10年の平均並みか平均を下回っていましたが、8月に入り急拡大し、8月5日に42%と今年最大規模となりました（図2）。直近10年間の年最大規模と比較すると、今年は6番目の大きさでしたが、近年の縮小傾向は続いていると考えられました（図3）。

9月上旬までは、内湾北部を中心に強く貧酸素化した状態が続きましたが、9月9日に東京湾を通過した台風15号による猛烈な風によって強い成層状態が崩れ、それ以降は内湾北部の一部で海底付近に貧酸素化が認められる程度となり、直近10年の平均を下回る規模で推移しました（図1、2）。貧酸素水塊は、10月の台風19号の強風による攪拌や、表層水温低下に伴う鉛直混合の促進等により徐々に縮小し、12月3～4日に解消を確認しました。

千葉県水質保全課によると、青潮は2回発生しました（6月10～13日、7月8～11日）。

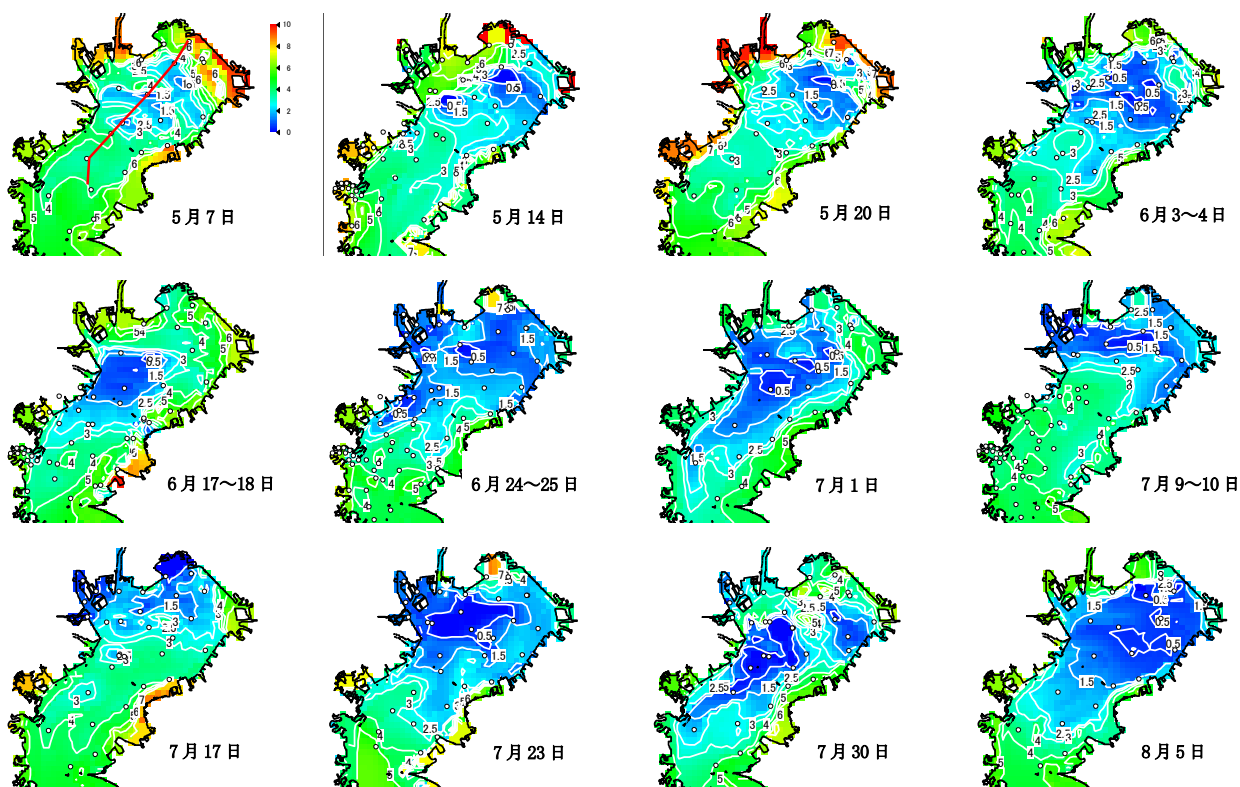


図1 底層の溶存酸素量分布 等値線の単位はmL/L 赤線は縦断ライン

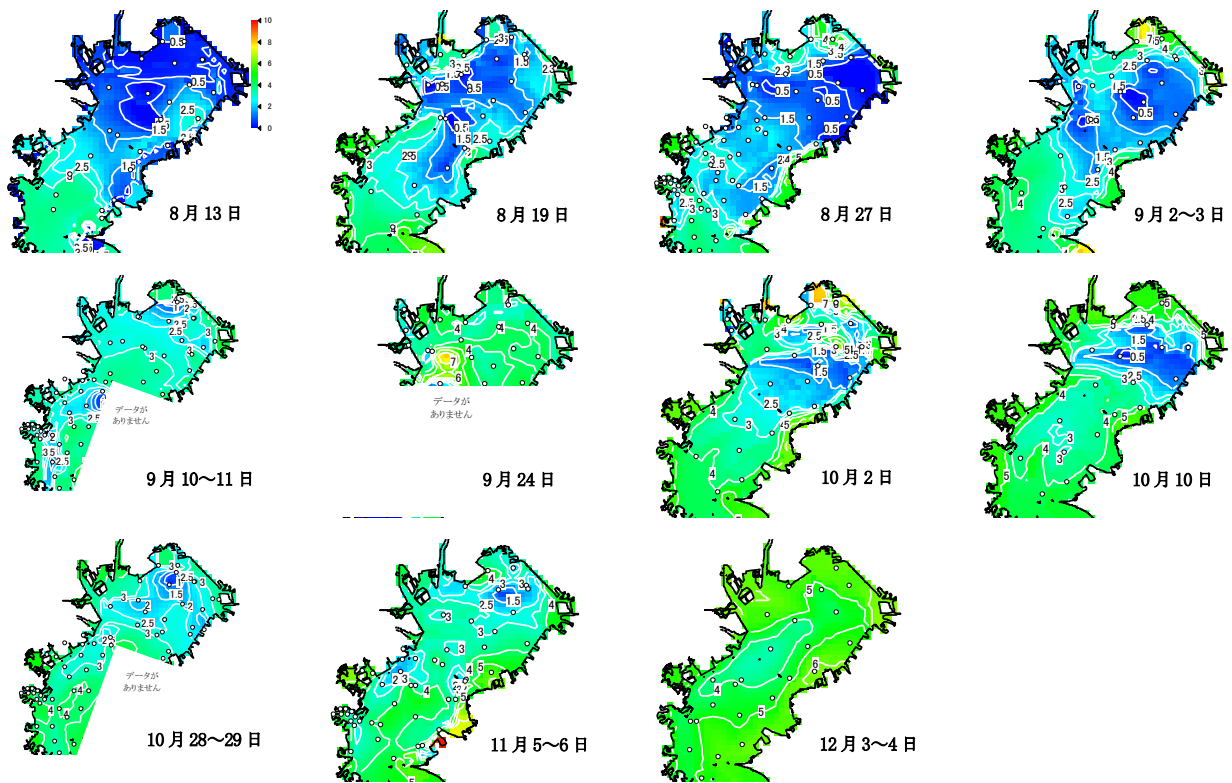


図1 底層の溶存酸素量分布 (続き)

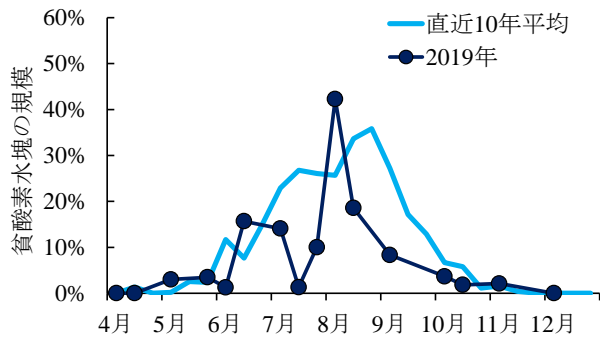


図2 規模の季節変化

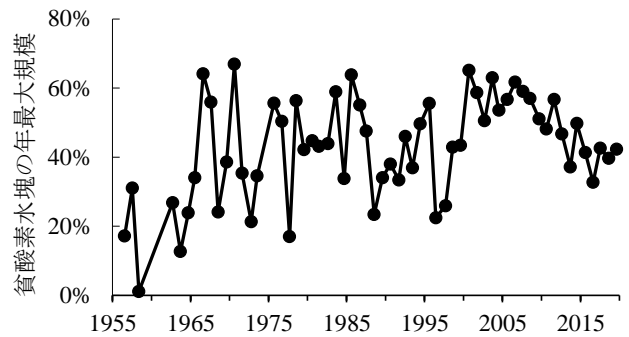


図3 年最大規模の経年変化